

今回は坂井先生から、この春から特別支援教育の現場に入るようになった人々への応援メッセージ的なモノです。この坂井先生のコーナーはサント物語内だけでなく、ホームページに掲載され、誰でも見れるようになっていました。その中には教育者の方々も居られる事でしょう。坂井先生は“気付ける支援者・指導者”だと僕は思っています。子ども達の目線やほんの少しの反応を見逃さず、自分の支援を評価出来る、テッカイアンテナを持った人だと思っています。坂井先生に関わって、気付けてもらえた子ども達は幸せだろうな・・・僕もそんな支援者になれたらいいと思います。 久田

第23回 『わかるように伝えていきますか』

香川大学 坂井 聡

ちょっと工夫をしてみませんか？

平成十九年四月から特別支援教育が始まりました。サンフェイスのホームページを読んでいる読者の中には、四月から新しく特別支援学校に採用された先生や、特別支援学級の担任になった先生もいるのではないかと思います。

新規採用で、新しく障がいのある子どもの教育に携わるようになった先生も、これまでに教育経験があっても、新しく障がいのある子どもたちの担任になったりすると緊張した時間を過ごしてきたのではないかと思います。三ヶ月目を迎えたので、少しは慣れてきている人もいるのではないのでしょうか。日々悩んでいるのは、これまで、障がいのある子どもがいることは知っていても、深く関わった経験がなかったからでしょう。つまり、どのように関わっていけばよいのかが分からないということではないかと思います。

これまで、障がいのある子どもたちの教育に携わってきた人も、新年度になって、連携機関との連絡調整や、保護者への対応等で、プレッシャーを感じている先生もいるのではないのでしょうか。

そこで、今回からしばらく、これまで十九年ほど特別支援学校の教員をした私の経験 と、今、立場を変えて間接的に障がいのある子どもたちに関わるようになってから得たものを踏まえながら、障がいのある子どもとの関わり方について、その考えを述べていきたいと考えています。

障がいのある子どもたちは、私たち教師の指導に対する反応がとてもストレートです。それゆえ、障がいのある子どもたちの教育の方が難しいと感じる人もいるのではないかと思います。「どうして、こちらの期待に答えてくれないのだろうか」、「知識のない自分に障がいのある子どもに対する教育はできないのではないかと」、その原因を 自分の指導力のなさに求め、自分を責めている人もいるのではないかと思います。

しかし、そんなにすぐにうまくいくものではないのです。なかなかうまくいくものではないのです。教育とはそんなに簡単なものではないと思うのです。

子どもたちが、授業中を含め様々な学校の場面で、ストレートに反応を返してくれるということは、見方を変えれば、私たち指導者の関わり方がどうだったのか、指導者が伝えたかったことが、子どもに分かるように伝わったのかどうかという ことの評価になるのです。つまり、この評価を基にして、指導の方法を考え工夫していくことができれば、そこに指導のヒントが見えてくるということだと思います。子どもたちの反応を私たち指導者側の関わり方に対する評価としてみる事が大切なのです。

子どもたちの反応を評価として考えることができれば、いろいろな工夫を考えることにつながります。

評価、工夫、指導を繰り返すことが、次につながるはずですが、工夫することは結構楽しいことでもあったりします。ちょっと工夫をしてみませんか？

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里） クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会） 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など